

Title	論文著者紹介/教員紹介, 投稿規定, 編集後記, 奥付
Author(s)	
Citation	Communication-Design. 1 p.218-p.222
Issue Date	2008-03
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/22077
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

投稿規定

1. 投稿者の資格

投稿者（筆頭著者）は原則としてコミュニケーションデザイン・センター教員に限る。ただし、Communication-Design編集担当（以下、編集担当）が承認または原稿執筆を依頼したもの（寄稿論文）についてはこの限りではない。

2. 投稿原稿の内容・種類・頁数

2.1 内容

投稿原稿の内容は自由だが、広義のコミュニケーションデザインの概念、実践・教育方法の開発に寄与するものを対象とする。原稿の種類は、論文、実践報告、研究ノートとする。

2.2 種類

2.2.1 論文

学術的な論文

- 原著論文（Original Paper）

当該分野における新しい研究・開発の成果の記述で、研究の対象、方法、あるいは結果に独創性、創造性があり、かつ明確で価値のある結果や事実を含む。

- 総説論文（Review Paper）

対象とする分野における研究の、歴史的背景、重要性、進捗状況、今後の発展の方向などを踏まえつつ、著者の学術的、技術的な研究、あるいは開発成果を総合的にまとめたもの。

2.2.2 実践報告

社学連携の報告など

例：技術報告（Technical Report）：設備・装置・ソフトウェアなどの設計・政策・試験・運用・評価などの新しい経験やその結果の報告で、実用的価値のあるもの。

2.2.3 研究ノート

上記1、2のカテゴリに当てはまらない原稿（下記の例示を参照）

- 短報（速報）：今後論文にまとめる予定の試論、又は速報的なもの。
- 提言：社会に対して提言を行うもの。
- 資料：論文のスタイルに収まりにくいもの。委員会・研究会が集約した意見・報告書など。
- 編集者への手紙（letter to editor）：論文に対する意見、編集に対する意見など。
- 話題：最近注目されている事柄等に対する話題、意見など（比較的短い文章）。
- 書評：書物に対する評。
- エッセイ
- その他

3. 投稿原稿の作成及び提出

3.1 原稿の様式

別紙執筆要領^{※1}に従うこと。

※1 執筆要領及びその他の書類は下記URLを参照のこと。

<http://cscd.osaka-u.ac.jp/data/orangebook/>

3.2 受理日

投稿原稿が編集担当に到着した日付をもって原稿の受理日とする。

3.3 内容

投稿原稿の内容は、原則として他の書籍・雑誌において未発表でかつ査読中でないものとする。

4. 査読手続き

4.1 査読の対象となる原稿

論文および実践報告とする。研究ノートについては、論文や実践報告に準ずる短報、提言、資料等を原則として対象とするが、その判断は編集担当に一任することとする。

4.2 査読者の選出等

投稿された原稿について、編集担当が2名の査読者を選出し、別紙の査読要領にしたがって査読を行う。

4.3 投稿原稿の採否

査読の結果に基づいて編集担当が決定し、投稿者に通知する。

4.4 原稿の修正

査読照会事項について原稿の修正を行う場合は、旧原稿と査読所見に対する回答書を添えて、編集担当が指定した期間内に書類一式を再提出する。

5. 著者校正

著者校正は1回とし、再校以降は編集担当が担当する。

6. 著作権

本誌に掲載された論文等の内容については、投稿者に著作権があるものとする。また本誌は、電子論文集としても発行し^{※2}、原稿はWebサイトにPDFファイルで掲載するが、掲載の可否については投稿者の承諾を得ることとする。

また投稿において著作権者の存在する写真、図版、資料を引用する場合には、投稿者が責任をもって許可を得ておくこと。

※2 ただし、1号(2007年度号)以降については、大阪大学出版会と協議の上決定する。

7. 別刷り

別刷りは印刷しないが、投稿者へは版下データ（PDF形式）で掲載原稿を提供する。

8. 投稿期限及び投稿先

原稿の投稿申し込みは、氏名、投稿原稿タイトル（仮題）を記し、7月31日までに編集担当にメールで送付する。編集担当アドレスは、以下の通りである。

cscd-hensyu@cscd.osaka-u.ac.jp

原稿の投稿期限は10月10日17時とする。封筒に「投稿原稿在中」と朱記し、コミュニケーションデザイン・センター事務局庶務担当に提出する。

付則

この規定の改正は、2007年6月から施行する。

Communication-Design 1

異なる分野・文化・フィールド ― 人と人のつながりをデザインする

企画	大阪大学コミュニケーションデザイン・センター
編集・制作	西村ユミ 平川秀幸 中西淑美 菅磨志保 清水良介
第1部 編集・制作	本間直樹
編集協力	中村光江 川上展代
アートディレクション デザイン	清水良介 清水良介 遠藤裕美子
発行所	2008年3月31日 初版第1刷発行 [検印廃止] 大阪大学コミュニケーションデザイン・センター (CSCD) 〒565-0826 大阪府吹田市千里万博公園1-1 Tel. 06-6816-9494 Fax. 06-6875-9800 http://www.cscd.osaka-u.ac.jp/ 大阪大学出版会 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-7 大阪大学ウエストフロント 代表者 鷲田清一 Tel.・Fax. 06-6877-1614 (代表) http://www.osaka-up.or.jp/
印刷所	岡村印刷工業株式会社
©Center for the Study of Communication-Design and Authors. All Rights Reserved. 2008 Printed in Japan 本書における全ての著作権は、大阪大学コミュニケーションデザイン・センターとその著者に帰属します。 無断転載を禁ず。	
Ⓜ〈日本複写権センター委託出版物〉 本書を無断で複写複製(コピー)することは、著作権法上の例外を除き、禁じられています。 本書をコピーされる場合は、事前に日本複写権センター(JRRC)の許諾を受けてください。 JRRC [http://www.jrcc.or.jp eメール: info@jrcc.or.jp 電話: 03-3401-2382]	
ISBN 978-4-87259-270-2 ISSN 1881-8234	

編集後記

出版物やウェブサイトをつくっていくことは、組織が外に向ける「顔」を描くことになるので、苦労も多いがやりがいのある面白い仕事です。また感覚的に「外」に接しているデザイナーたちと、差し向かいでおこなう協働作業はいつもスリリングで、新しい発想の源泉にもなります。そうした面白さが読者のみなさんとも分かち合えることを期待します。Ⓜ

設立後3年を経たCSCDは常にカタチをかえながら、動き続ける面白い現場です。この号はまさに、この動き続ける現場から生み出された3年間のリソースが堆積し、新しいカタチとなって生まれました。文章や写真だけでなく、映像、素材、形など、どれもが現場に結びついています。次号ではどのようなカタチが生み出されるのか、どうぞお楽しみに。Ⓜ

多分野・多業種のスタッフ陣によるコミュニケーションデザインを映し出す媒体であり、その編集自体が一つのプロジェクトにもなっているオレンジブック。2年目の今年は、多彩な実践報告から、1冊目で語られたCSCDの構想がどのように動き出し展開されようとしているのかが読み取れる。3年目は何が生み出されているだろうか。乞うご期待。Ⓜ

2年目のオレンジブックは、さまざまな考え方の競合であり、可視化であり、事柄であった。例えば、一般用語としての視点、専門用語としての視点、学術的用語としての視点。執筆者と査読者ならびに関係者の深い思索交流に、心から謝意を表すと共に、その交流からG・ライルの言葉を思い出したのでそれを記しておきたい。「一方の視点―世界を探索しているとき、素人と科学者とが同様にもつ視点―からすれば、私たちは知覚することによってそこに実際に在るものを発見する」Ⓜ

2年目となった本誌の論文と実践報告の査読。多彩な学術領域と社会実践が集まるCSCDからの成果発信を、専門的な質を確保しつつ、広く他領域にコミュニケートされるよう評価することは、今年度も困難を極めるジッケンだった。労をいとわず取り組んで下さった執筆者と査読者諸氏にふかく感謝申しあげたい。Ⓜ

本年度のオレンジブック・プロジェクトは、2007年度号の企画・編集を進めつつ、同時に「販売」の可能性を模索してきた。無事、大阪大学出版会との共同発行と出版会からの販売が可能になったが、ここに到る過程は、多様な関係者との間での更なるコミュニケーション回路を作り出す、新たな実験プロセスでもあったと思う。そしてその分だけ、多くの人の思想を吸収し、咀嚼してきた。本誌を手にとりて下さった方と新たな対話がはじまることを、そして新たな思想のかたちを作り出されることを楽しみにしています。Ⓜ